大牟田西遺跡

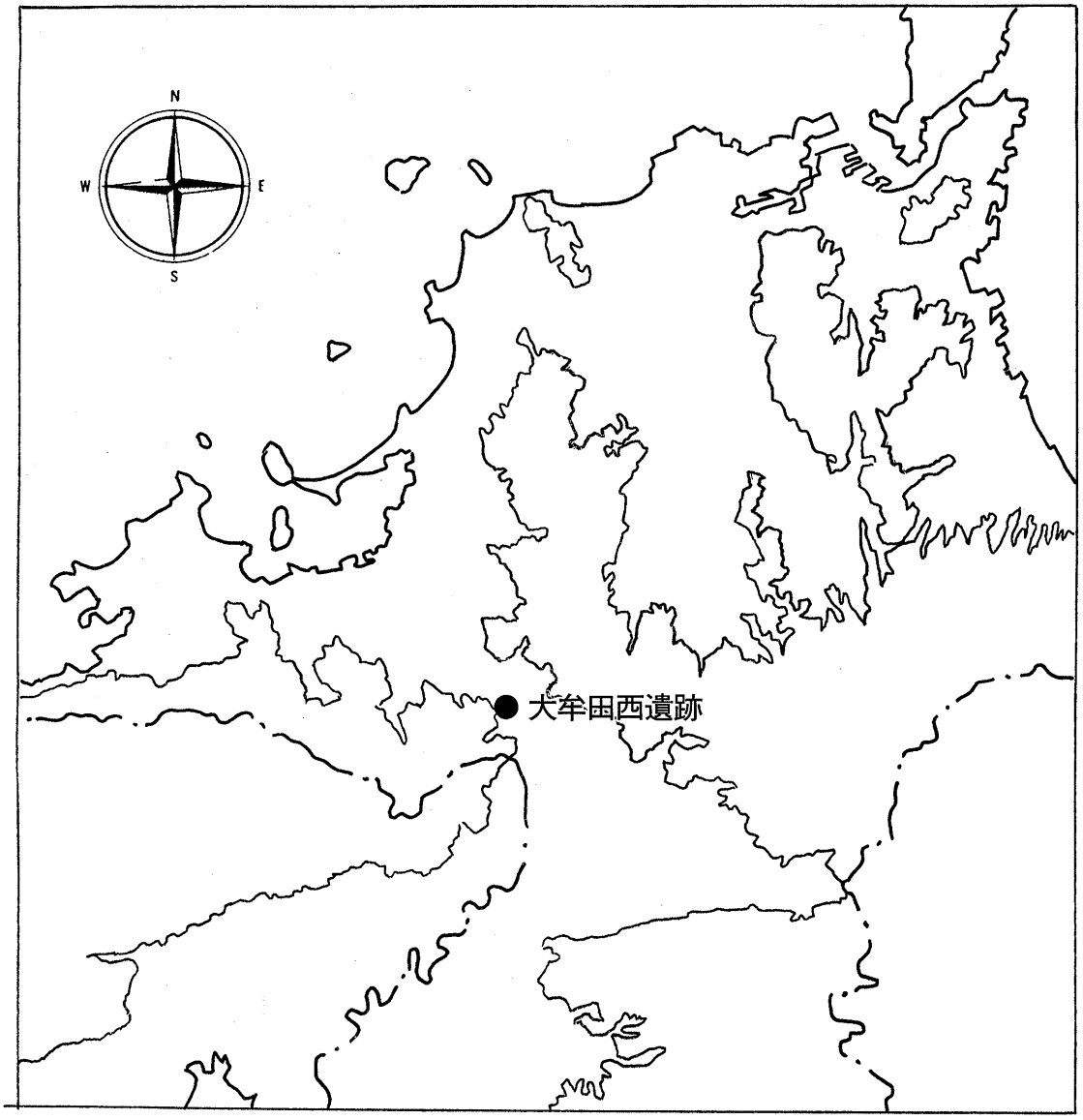
筑紫野市文化財調査報告書

第76集

2003

筑紫野市教育委員会

大牟田西遺跡（おおむたにし）



例　言

1．本書は精米工場建築に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2．この調査は㈱ダイゴの委託を受け、平成３年度に筑紫野市教育委員会が実施した。
3．調査対象地は筑紫野市大字永岡1305番１、1306番３、1306番５の3,665m²である
4．試掘調査から調査に至るまでの業務は社会教育課文化財係主事奥村俊久が行った。
5．現地での調査にかかる個別遺構の実測および写真撮影は奥村が行い、調査区全域の写真測量および全景写真撮影を大成ジオテック福岡支店に委託した。
5．出土遺物の実測は奥村と㈲文化財テクノアシストに委託した。
6．出土遺物の写真撮影はフォトハウスOkaに委託した。
7．発掘時の遺構番号は遺構単体で完結すると考えられる遺構には、頭にＳを冠し番号を付け、単体で完結しないと考えられるピット等の遺構は頭にＰを冠し番号を付した。遺物の付番も同様とした。
8．報告に当たっては遺構の性格付けを行い、墳墓をST、土壙をSK、溝をSD、不明遺構をSXの略号を与え、その後に現場で付した番号をそのまま付した。ピット等についてはそのまま用いた。
9．発掘調査は、筑紫野市教育委員会　社会教育課　文化財担当主事　奥村俊久が担当した。
10．本書の執筆、編集は奥村が行った。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　位置と環境 …… 1
Ⅲ　調査の内容 …… 5
　1．竪穴住居跡 …… 5
　2．土壙 …… 5
　3．不明遺構 …… 8
　4．その他の遺構遺物 …… 9
Ⅳ　まとめ …… 10

挿図目次

第1図　周辺遺跡分布図（縮尺 1/25,000） …… 2
第2図　遺跡周辺地形図（1/2,500） …… 3
第3図　大牟田西遺跡遺構配置図（縮尺 1/200） …… 4
第4図　SC800実測図（縮尺 1/60） …… 5
第5図　SK実測図（縮尺 1/40） …… 6
第6図　SK010出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 7
第7図　SK014出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 8
第8図　SX実測図（縮尺 1/40） …… 8
第9図　その他の出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 9
第10図　その他の出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 10

表　目　次

主要遺構出土遺物一覧 …… 11

I　調査に至る経過

精米工場建設に係る都市計画法第32条による公共・公益施設に関する事前協議があり、教育委員会では当該地が周知の遺跡に該当していることから、確認調査を実施し、文化財保護法に係る必要な措置を講ずる旨指導した。このことを受けて、㈱ダイゴから文化財の有無について照会があり、確認調査を実施したところ、古墳時代と考えられる土壙やピットが確認された。

平成２年11月21日付けで、㈱ダイゴから文化財保護法第57条の２に基づく埋蔵文化財発掘の届出がなされた。教育委員会は直ちに県教育委員会に進達し、工事着手前に発掘調査を実施する旨の通知が県教育委員会から到達し、直ちに通知した。㈱ダイゴはこれを受けて教育委員会に発掘調査の依頼を行い、平成３年７月31日付けで文化財発掘調査委託契約を締結した。発掘調査は平成３年10月15日から着手し、同年12月19日をもって現場における作業を終了した。

II　位置と環境

筑紫野市は福岡市と久留米市の中間に位置する。西に背振山塊、東に三群山塊が迫り、その間に二日市低地帯と呼ばれる狭長な平野部がある。この平野部は北に福岡平野、南に筑紫平野を望み、市域北部には博多湾へ注ぐ御笠川水系の鷺田川流域、その外の地域は有明海に注ぐ筑後川水系の宝満川流域となる。宝満川は三郡山に源を発し、吉木、阿志岐の平野を潤し、永岡付近で九千部山に源を発する山口川と合流し、久留米市で筑後川に濯ぎ込む。山口川は当初山口から諸田に向い流れていたと考えられるが、阿蘇４火砕流の堆積により流路を北向きに変え、鷺田川に流れ込んでいたようである。しかし、宝満川支流の開析等により、やがて永岡付近で再び宝満川に流れ込むようになったとされる[註1]。旧流路と現在の流路の間には標高97mを頂部とする独立丘陵が残り、さらに丘陵は開析され、小丘陵と開析谷が入組んだ地形を呈す。この北側の小丘陵のひとつに大牟田西遺跡は所在する。丘陵北側の小丘陵上には、本遺跡のほか立明寺古墳群[註2]やヨロイ田遺跡、大牟田東遺跡等が所在する。しかし、これまで南側の遺跡はあまり明確ではなかった。しかし国道３号線筑紫野バイパスの発掘調査により、諸田仮塚遺跡[註3]、仮塚南遺跡[註4]等の様相が明らかとなってきた。また、この丘陵の東側には火砕流台地が延び、永岡遺跡[註5]や常松遺跡等の弥生時代の著名な遺跡が所在する。

大牟田西遺跡の今回調査地点は開析丘陵の東側斜面に位置し、全面の谷部は北側に開く。遺構面上には多量の客土が乗っており、遺構検出面にも撹乱が多く見受けられ、遺構の残りも良好とはいえない状況であった。

註

註１　「筑紫野市史」―上巻―（第一編自然環境　第二節地質）1999　筑紫野市

註２　「筑紫野市史」―資料編(上)―（第一部解説編　第四章　古墳時代　立明寺古墳群）2001　筑紫野市

註３　「諸田仮塚遺跡」――般国道３号線筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第５集―　1998

註４　「仮塚南遺跡」――般国道３号線筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第３集―　1995
福岡県教育委員会

註５ａ　「福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」－第１集－　1970　福岡県教育委員会

ｂ　「福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」－第４集（図版編）－　1976　福岡県教育委員会

ｃ　「福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」－第５集（本文編）－　1977　福岡県教育委員会

ｄ　「永岡遺跡」　筑紫野市文化財調査報告書第６集　1981　筑紫野市教育委員会

ｅ　「永岡遺跡Ⅱ」　筑紫野市文化財調査報告書第26集　1990　筑紫野市教育委員会

ｆ　「永岡遺跡　第４次発掘調査」　筑紫野市文化財調査報告書　第73集　2002　筑紫野市教育委員会

第１図　周辺遺跡分布図（縮尺 1/25,000）

1	大宰府跡	2	原口古墳	3	野黒坂遺跡	4	峠山遺跡	5	立明寺古墳群
6	立明寺遺跡	7	竹敷遺跡	8	永岡遺跡	**9**	**大牟田西遺跡**	10	大牟田東遺跡
11	常松遺跡	12	諸田仮塚古墳群	13	仮塚南遺跡	14	貝元遺跡	15	トドキ遺跡
16	以来尺遺跡								

第2図　遺跡周辺地形図（1/2,500）

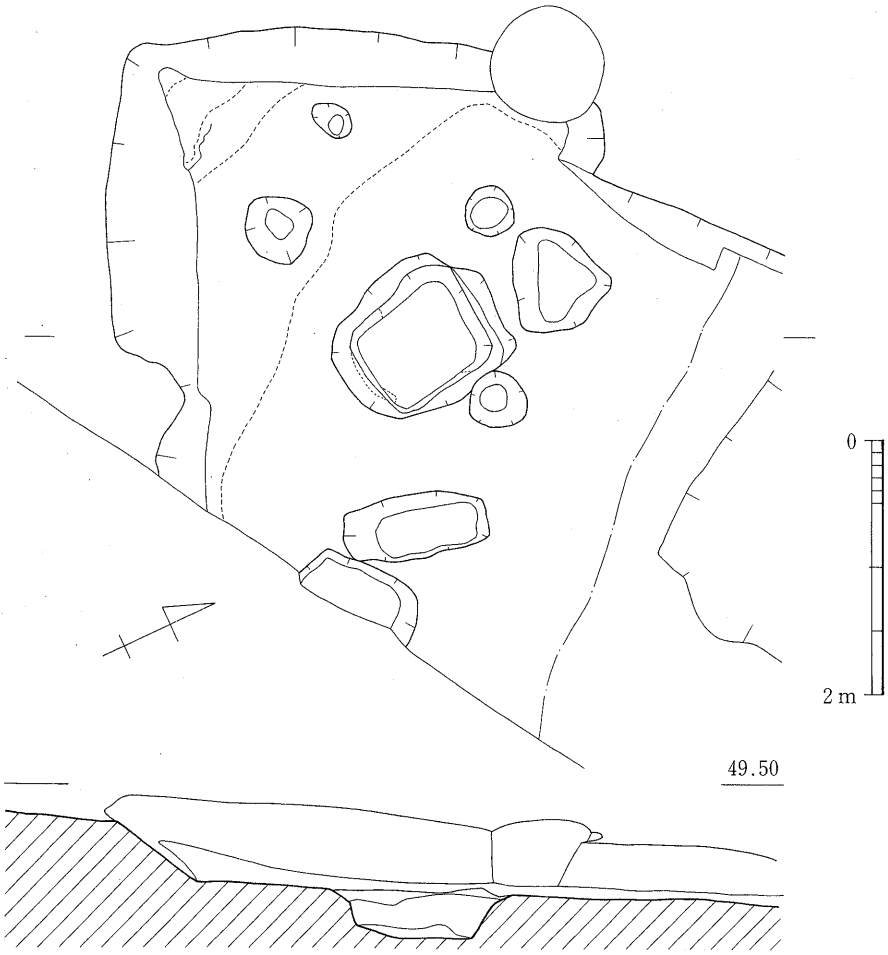
第 3 図　大牟田西遺跡遺構配置図（縮尺 1/200）

III　調査の内容

1．竪穴住居跡

（1）SC008

調査区の南東端で検出した。西側は調査区外となっており、北側は失われる。壁体はかなり崩れ、緩やかな傾斜を持つ。北西側の壁体は両側にコーナーが確認され、検出面で3m75cmを測る。南東側は検出面で3m80cmまで測ることができたが、さらに調査区外まで伸びる。明確な主柱穴は確認できなかったが、検出床面のほぼ中央に1m22cm×1m16cm、深さ35cm程の略方形プランを呈す竪穴が穿かれていた。壁体の南側半分しっかり焼けていた。しかし、この竪穴と住居跡と考えられる遺構の主軸方向が33°ずれており、住居跡に付属するものか、若干の疑問が残る。



第4図　SC008実測図（縮尺 1/60）

2．土壙

（1）SK001

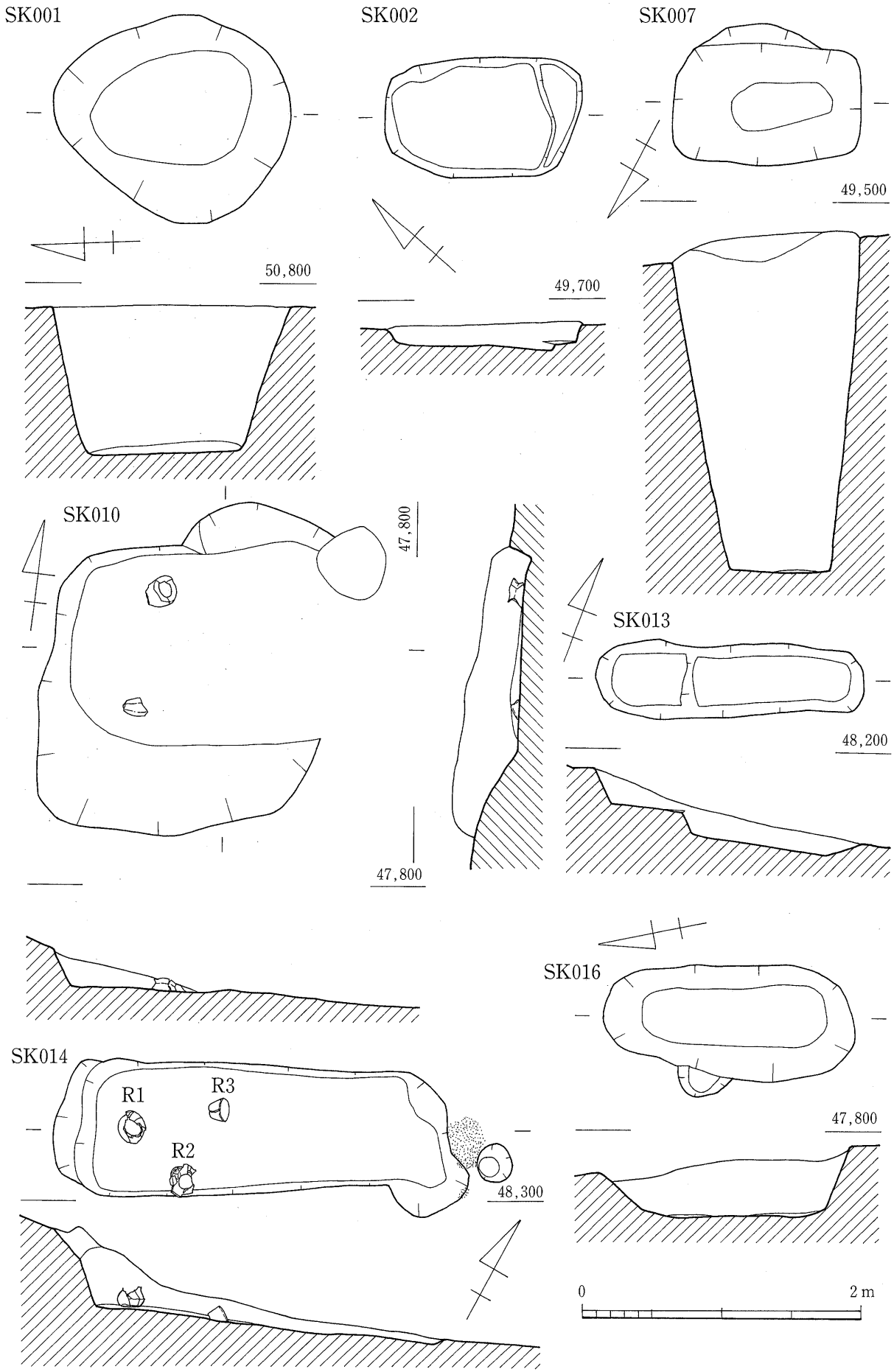
1m70cm×1m47cmを測る略円形プランを図る土壙で、調査区西端中央で検出した。深さは1m30cmを測る。

（2）SK002

調査区の南側で検出した。1m38cm×80cmを測る土壙で、南東側の端に短い段を持つ。床面のもっとも深いところまで20cm程で残りは悪い。

（3）SK007

SK001に隣接して検出した。1m34cm×86cmを測る方形プランを呈す。床面は72cm×33cmを測る楕円形プランを呈し、遺構検出面から2m38cmを測る。



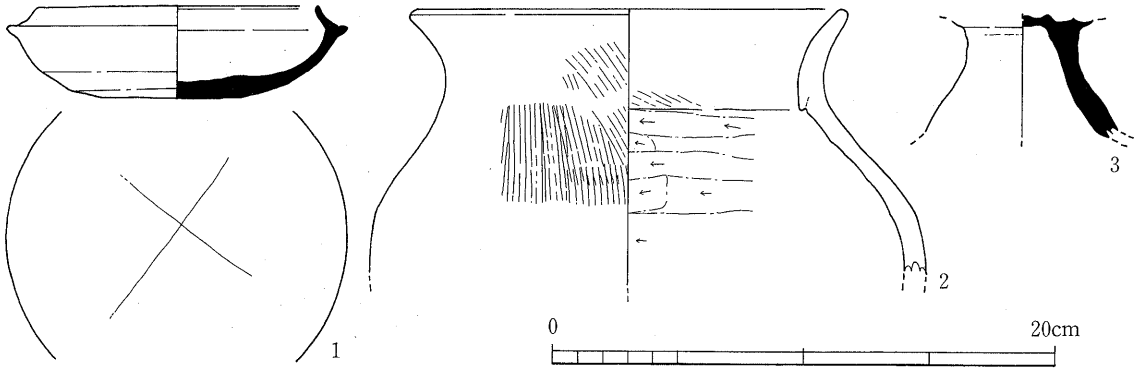
第 5 図　SK 実測図（縮尺 1/40）

（4）SK010

SC008の斜面下側で検出した。東半部の壁体は失われる。プランは方形を呈し、東西辺は1.9mを測る。南北辺は2.0mが残る。床面には土師器甕の上半部と礫が残されていた。

遺物

1は須恵器の坏身である。推定口径11cm、推定受部径14.2cm、器高は3.6cmを測る。立ち上りは内傾し、端部は丸く収まる。受部は短く、僅かに上方に引き出され、立ち上りとの境に小さな段が巡る。体部から底部にかけて緩やかな丸みを持って移行し、その2/3程に回転ヘラ削りが施される。また、底部には×上のヘラ記号が残される。2は土師器の甕で口径17.4cm、残存高10.3cmを測る。口縁部は外反し、緩やかに球状の胴部へ移る。外面は縦方向に刷毛目調整され、口縁部内面はやや下り気味の横方向の刷毛目調整の後にヨコナデされる。胴部内面は粗く横方向にヘラケズリされる。色調は黄橙色を呈し、胎土は1mm以下の砂粒を多く含む。焼成は良好である。3は土師器の高坏の脚上部で残存高4.5cmを測る。1・3は遺構端部の傾斜面近くで出土し、この遺構に伴うものか明確でない。



第6図　SK010出土遺物実測図（縮尺 1/3）

（5）SK013

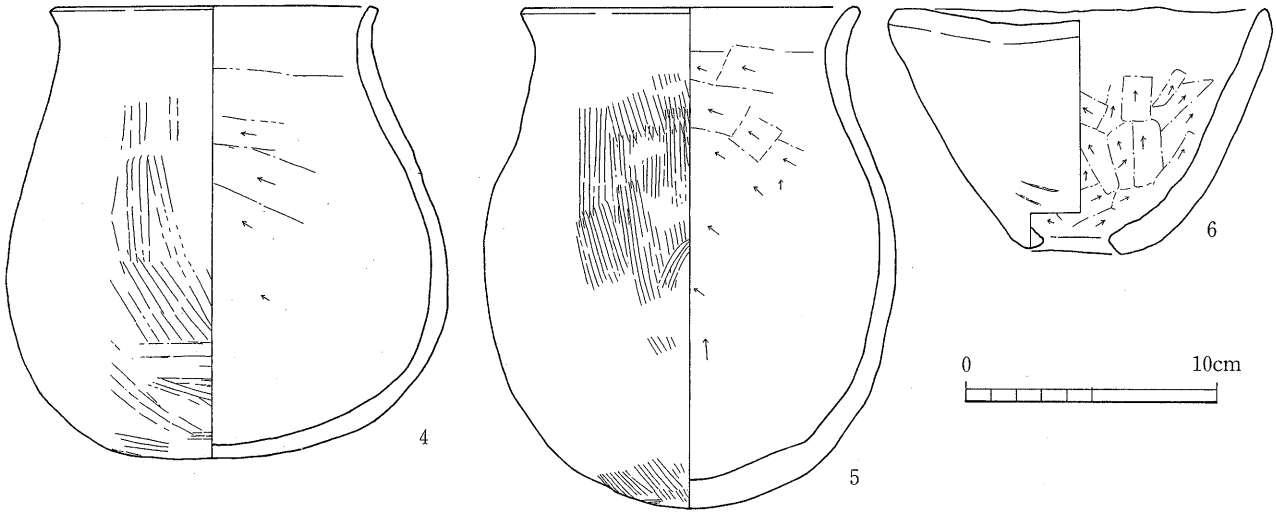
調査区の中央下側でSK014と並んで検出された。長さ1.92m、幅0.5m程の両端が丸みを帯びる略長方形のプランを呈す。斜面上方側に長さ50cm、幅36cm程の段をもち、その15cm下に、長さ112cm、幅33cmのやや傾斜した床面を持つ。

（6）SK014

SK013の北隣で検出した。東半部の壁体は失われるが、東端床面が僅かに立ち上り、遺構の端近くと推測される。プランは方形を呈し、床面は幅85cm、長さは140cm余りと思われる。床面はほぼ平坦で、西側に3点の土器が残されていた。また、東側の立ち上がりの外側検出面が赤変していたが、本遺構の残存状況から、この部分が当時の遺構の掘り込まれていた面とは考え難く、直接、本遺構に伴うものではないと考えられる。

遺物

4は挿図上R1とした土師器の甕である。復元口径13cm、器高は17.8cmである。口縁部は短く外反し、胴部は下位に最大径を持つ。底部は丸底である。胴部外面は縦方向の刷毛目調整の後、下位から底部にかけて横方向の刷毛目が施される。内面はヘラ削りされ、胴部下半はナデにより仕上げられる。口頸部はヨコナデされる。5は挿図上R2とした土師器の甕である。口径13cm、器高19.65cmを測る。口縁部は短く外反し、胴部中位に最大径を持つ。底部は球状をなす。口縁部は内外面ともヨコナデされ、胴部から底部にかけて外面は刷毛目調整され、内面は胴部がヘラ削り、底部がナデで仕上げられる。6は図上R3とした土師器の鉢である。口径15.2cm、器高9.6cmを測り、底部には2.5cmの孔を有す。体部はタタキにより成形され、その痕を丁寧にナデ消す。内面は細かいヘラ削りが施される。



第７図　SK014出土遺物実測図（縮尺 1/3）

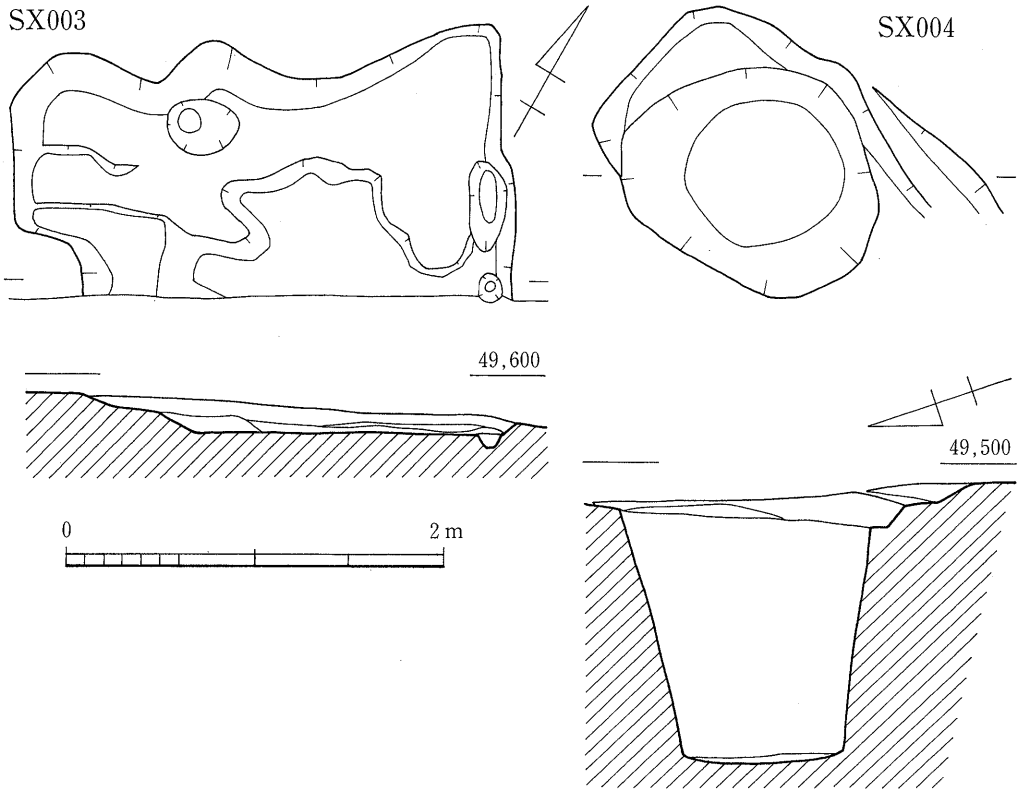
（７）SK016

SK014のさらに北側で検出した。外の土壙が等高線に直行する主軸をとるなか、等高線に比較的沿った主軸をとる。長さ1.9m、幅0.8mの長楕円形プランを呈し、床面は長さ131cm、幅40cmを測る。

３．不明遺構

（１）SX003

SC008の項部側に隣接して検出された。不整形のプランを呈し、遺構は調査区外へ延びる。調査区と平行に走る辺は2.58mを測り、深さは最もよく残っている部分で10cm程を測る。残りは全体に悪い。



第８図　SX 実測図（縮尺 1/40）

（2）SX004

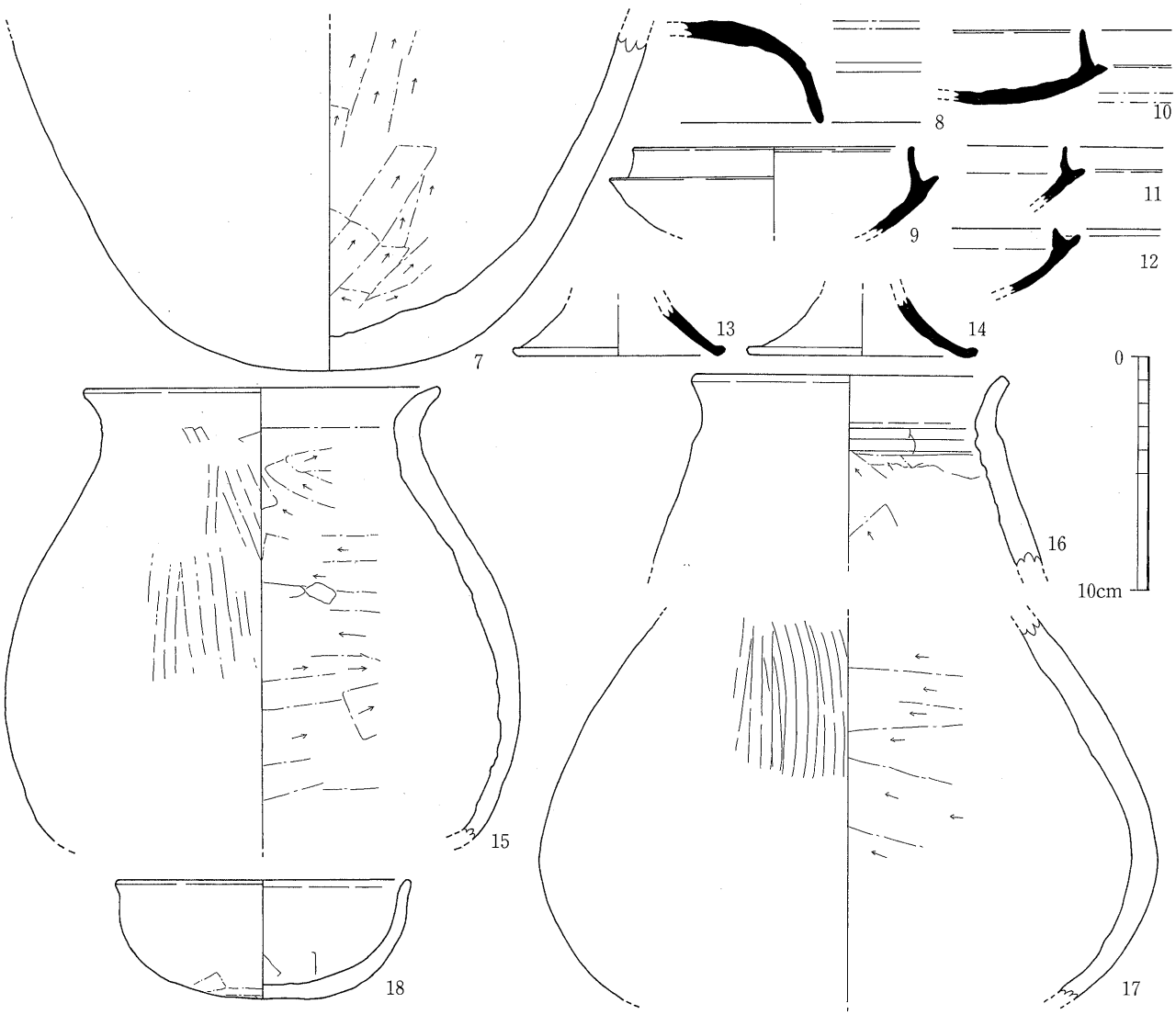
SC008の西側で検出した。深さは約130cmを測り、床面は径80cm程の円形プランを呈す。検出面から床面まで壁体は直線的に下る。

4．その他の遺構遺物

大半の壙は新しい時期のゴミ穴や撹乱で、明確な遺構は欠しい。そのなかでもＰ15から砥石が、Ｐ38から土師器が出土した。

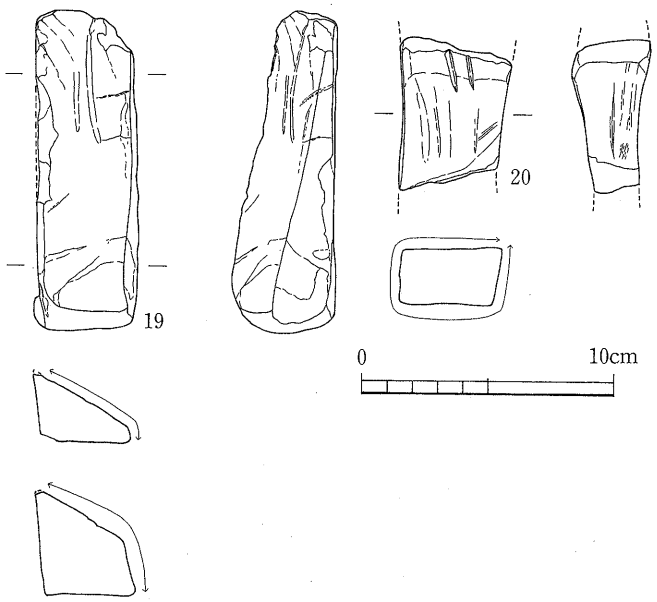
遺物

７はＰ38から出土した土師器甕の下半部である。底部は丸底で、残存高14.5cmを測る。外面はナデで調整され、内面はヘラ削りされる。８は須恵器の坏蓋である。小片で法量は明確でないが、体部と天井部の境には甘い段が巡り、体部は直線的に外傾して立つ。端部は丸く収まる。天井部は丸みを持ち、段から2.3cm程昇った部位から回転ヘラ削りが施される。９～12は須恵器の坏身である。法量が推定できるのは９のみで、口径12.1cm、受部径14.2cmである。９は立ち上りが僅かに内傾した後、上半は直立する。受け部は上方に引き出される。体部の2/3に回転ヘラ削りが施される。10は立ち上りが直線的に立ち、受部は横方向に引き出される。器高に占める立ち上りと体部の割合はほぼ1/2である。受部端から2.2cm程下がった部位から回転ヘラ削りが施される。11の立ち上16りの形



第９図　その他の出土遺物実測図（縮尺 1/3）

態は10に近いが、立ち上り高は2/3程である。12は立ち上りが低く、形態も断面三角形に近い。受部は上方に引き出され、体部のヘラ削りは残存部分にはみられない。13・14は須恵器の高坏脚裾部である。脚裾径は13が9.2cm、14が10cmを測る。残存部内外面ともヨコナデで仕上げられる。15～17は土師器の甕である。15は復元口径15.4cm、残存高19.8cm、胴部最大径22.2cmを測る。口縁部は短く外反し、胴部下位に最大径を持つ。残存部直下から底部に移行するものと思われる。胴部外面上半は縦方向の刷毛目調整、下半は器面が磨滅している。胴部内面はヘラ削りされる。口頸部は内外面ともヨコナデされる。16は復元口径13.7cm、残存高8.1cmを測る。基本的に15と同様の形態を取るものと考えられる。17は胴部の破片である。残存状況から復元すると図のようになるが、調整や胎土、その外全体的な特徴から考えると15，16と同様の形態となる可能性が高い。そうであるならば、実際の器壁はもっと立つ可能性がある。18は前述の遺物よりもう少し北側で出土した土師器の坏である。口径12.8cm、器高5.1cmを測る。口縁部は極僅かに外反し、丸底の底部はヘラ削りされる。外面体部から内面はヨコナデ、ナデにより調整されるが、内面底部には僅かに工具痕が残る。19は調査区の北東端で出土した。長さ13.6cm、最大幅4.15cm、最大厚4.15cmを測り、２側辺が使用される。20はＰ15から出土した砥石である。中央部付近だけ長さ６cmが残り、４面ともに使用される。調査区の遺構検出面は南西から北東に向かってかなり傾斜しており、調査区の北東端の低い部分では多くの遺物が流れ落ちていた。９～18はそのなかでも東側で出土したものである。



第10図　その他の出土遺物実測図（縮尺 1/3）

Ⅳ　まとめ

本調査で検出された遺構のうち、時期を特定できる資料が出土したのはSK010とSK014のみである。SK010から出土した須恵器坏身１は小田富士雄編年Ⅳa期に相当する。土師器甕２は上半部のみであるが、外反する口縁部の曲線があまり強くない点はやや古い様相を窺わせるが、胴部上位がやや張る点などは１の時期と矛盾はないと思われる。SK014出土の小型甕４は重藤輝行氏分類のＣ類である。[註1] 重心位置が低く、丸底でもかなり扁平に近くなっている。同じく５は４の底部が球状に押し出されたような形状を示す。重藤氏はＣ類の甕について「４期〔ＴＫ73～ＴＫ208〕以降になると小型で頸部のしまりの小さい甕も目立つようになる。…　…出現当初この甕Ｃには平底・断面レンズ状の底のもの（甕Ｃ１式）が見られ、…　…時期が下るについて平底のものは少なくなり、丸底のもの（甕Ｃ２式）が主体となる。」とされる。また、遺構外から発見された土器も15～17も４に近い形態を取るものと思われる。これらの土器と同じ位置から出土した須恵器坏は12を除きＴＫ23からＭＴ15頃のものと考えられる。12は小田富士雄編年Ｖ期頃のもと思われる。

以上の遺物から概ね５世紀前後の時期と７世紀前半代頃に遺跡が営まれたと思われる。

註

註１　重藤輝行　2002「福岡県における古墳時代中期～後期の土師器」『古墳時代中・後期の土師器』九州前方後円墳研究会

〔　〕内の形式は重藤輝行氏教示による。

主要遺構出土遺物一覧

（S番号添付遺構のみ）

遺構名	種　別	器種	小片	細片	備　　考
S002	土師器	甕・壺	1	5	いずれも同一個体
		不明		4	
	須恵器	不明	1	25	内9点接合
S003	土師器	甕	2	5	
		不明		6	
	弥生土器	不明		1	
S005	瓦器	不明		2	
S008	須恵器	坏身		1	小田編年IIb～IIIaか
		甕	4	2	叩き痕/縄目3、細格子3。当て具/全て青海波
		不明	1		軟質
	土師器	坏蓋		1	黒塗り
		甕	3	1	
		椀	2	52	細片の物は推定の幅が大きい。
		不明	6	85	
	弥生・土師器	不明		31	
S009	土師器	甕	2		
		椀		1	
		不明	2	11	
	弥生・土師器	不明	1		
	瓦器	鉢？	1		
S010	土師器	甕	11	8	
		坏	1	5	
		不明		17	
	弥生土器	高坏	1		脚裾
		不明	2		
	弥生・土師器	不明	2	59	
S011	弥生土器	甕	1		
		甕・壺	1		
	土師器	甕	4		
		甕・壺	47	36	
		椀	3	7	
		高坏	3	1	
		把手	1		
		不明	12	101	
	弥生・土師器	不明	1	5	
	須恵器	坏身	6	3	
		坏蓋	7	7	
		坏	14	1	
		甕	14	4	
		不明	1	13	

（便宜上、概ね3cm角以上のものを細片、3～8cm角のものを小片とした。）

	赤焼き	坏蓋		1	
		坏		1	
		甕	4		
S011b	土師器	甕・壺	4	2	
		不明		3	
	弥生・土師器	不明		2	
	須恵器	坏身	1		同心円当て具痕
		坏	1		
S011c	土師器	甕・壺	13	7	
		椀	2	3	
		不明	5	40	
	弥生・土師器	不明	1	1	
	須恵器	不明	1	1	
S011下層	弥生土器	不明	2		
	土師器	甕	1		
		甕・壺	48	25	内小片６・細片１同一個体
		椀	4	2	内小片７・細片14同一個体
		甑	1		
		把手	1		
		不明	13	75	
	弥生・土師器	不明	3	12	
	須恵器	甕	13	1	
	赤焼き	坏身	2		
		坏蓋	1		
		甕	4		
	石器	石斧		1	玄武岩製
S014	弥生土器	甕	1		
	土師器	鉢	1		
		不明		14	
	弥生・土師器	不明		3	
	須恵器	坏	1		
S014前	土師器	甕・壺	1	3	
S015	土師器	甕	3	1	
		甕・壺	16	19	
		椀		3	
		不明	3	51	
	弥生・土師器	甕		3	
	須恵器	坏身	1		小田編年Ⅲｂ？
		不明		1	
S016	弥生土器	甕		1	
	土師器	甕・壺	1	2	
	弥生・土師器	甕・壺		1	
	石材	剥片	1		サヌカイト・縦長不定形

（便宜上、概ね３cm角以上のものを細片、３～８cm角のものを小片とした。）

図　　版

図版 1

（1）発掘調査区遠景

（2）発掘調査区近景

（1）SC008（西から）

（2）P007（SC008内）
（北から）

（3）SK007（上部）
（北から）

図版 3

（1）SK007（完掘状況）
（北から）

（2）SK010（北から）

（3）SK014（東から）

（1）SK014（北から）

（2）SK016（北から）

（3）SX004（北から）

図版 5

2

4

5

6

15

18

図版番号は挿図番号と同じ

報告書抄録

フリガナ	オオムタニシイセキ
書名	大牟田西遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	筑紫野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第76集
編集者名	奥村俊久
編集機関	筑紫野市教育委員会（文化財課文化財担当）
所在地	〒818-8686　福岡県筑紫野市大字二日市753-1 TEL　092（923）1111
発行年月日	平成15年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（m²）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大牟田西遺跡（おおむたにしいせき）	福岡県筑紫野市永岡（ふくおかけんちくしのしながおか）	40217	170117	33°00′00″	131°00′00″	911015～911219	3,665	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大牟田西遺跡		古墳時代	竪穴式住居跡 土壙	須恵器 土師器	

大牟田西遺跡

筑紫野市文化財調査報告書

第76集

平成15年3月31日

発　行　筑紫野市教育委員会
〒818－8686　福岡県筑紫野市大字二日市西1－1－1
TEL　092－923－1111㈹
FAX　092－923－9644

印　刷　大同印刷株式会社
〒840－0815　佐賀市天神一丁目1番32号
TEL　0952－24－8450㈹
FAX　0952－28－5583
URL http://www.daidou-jp.com.